

2024

9

September
No. 379

広報みしま

Mishima Town Public Relations



秋篠宮家 佳子様 ご訪問 第一只見川橋梁ビューポイント

8月11日、第一只見川橋梁ビューポイントに秋篠宮家 佳子様が視察に訪れ、町長、議長、副町長、教育長が町を代表しお迎えしました。

只見線こども会議のメンバーから贈られた小旗やうちわを振りながら列車が鉄橋を通行する様子を笑顔で見守られました。

奥会津郷土写真家の星賢孝さんが撮影した四季折々の只見線・奥会津の風景写真を手にした際には「素晴らしいですね」と感動した様子でした。「頑張ってください」とのお言葉を受けた星さんは「魅力を知ってもらい、応援していただけることは心強い」と語っていました。

道の駅では佳子様が出迎えた大勢の町民の方々と言葉を交わし、時折手話を交えて触れ合うお姿が印象的でした。

福島県
大沼郡
三島町



三島町は、福島県の西部を流れる只見川沿いの小さな町です。優良な「会津桐」の産地として知られるほか、小正月の行事「サイノカミ」や、野山の材料で作る「編み組細工」などの伝統が受け継がれ、「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。



▲アタックするチーム「みしま」



▲優勝し喜び合う様子

家庭バレーボール優勝！！ 地域スポーツ会津大会

8月4日に第77回福島県総合スポーツ大会会津地域大会が喜多方市の押切川公園体育館で開催されました。

三島町からは家庭バレーボールチーム「みしま」が出場しました。

チーム「みしま」は予選から絶好調で「門田バレークラブ」、「熱塩加納町体育協会」、「謹教」を相手に全勝し、グループリーグを1位通過しました。

決勝戦の相手は試合巧者のチーム「日新」で、フルセットに及ぶ白熱した試合が行われました。1セット目は、順調に得点を重ね危なげなくス

パイクを決めセットを取得。2セット目は、連戦の疲労からセットを落としてしまいました。最終セットに突入し、なかなか攻撃が決まらない苦しい展開でも、粘りのバレーを見せ、何とか勝ち切ることができました。

全ての試合において攻守ともにハイレベルなプレーを見せ見事会津大会を優勝しました。

地域スポーツ会津大会での優勝は久しぶりとなり、チーム「みしま」の選手の皆さんは歓喜に酔いしれていました。

攻守ともにハイレベル！激戦を制す

『二十歳』の誓い胸に刻む！ 令和6年度 二十歳を祝う会



▲進行を務めた小松凌大さん

氏名	地区
あおき 木 亜 怜	西 方
あおき 木 信 幸	荒屋敷
い 藤 とし 敏 明	宮 下
こ 柴 ひろ 大 空	西 方
こ 小 松 まつ りょう 大	西 方
さ 藤 花 の 音	宮 下
すず 鈴 木 さ 彩 月	荒屋敷
は 長 谷 川 た 拓 り 美	川 井
は 秦 梨 お 緒	大石田
ばん 坂 内 ゆ う 史	西 方
や 矢 澤 ま さ 雅 生	高清水

三島町「二十歳を祝う会」は、8月11日に三島町交流センター山びこで行われ、10人の新成人が出席しました。

矢澤源成町長から、新成人となった出席者に「二十歳の記念証」が手渡され、「三島町で培った力を信じ、自分の力で未来を切り開いてほしい」とお祝いのことが贈られた後、お招きした2人の恩師からは、懐かしいエピソードを交えたメッセージをいただきました。その後、役場町民課板橋課長をファシリテーターとして「人口減少社会における三島町の持続可能な姿を考える」をテーマに、トークセッションが行われました。

出席者は「町の知名度を高めるため、イベントの活用やPRに力を入れるべき」といった意見や「雇用の創出によって移住



▲トークセッションの様子

定住を促すべき」など様々な意見が出されました。写真撮影の後は、記念事業や恩師を交えた祝賀会も行われ、会話に花を咲かせていました。

持続可能な町づくりについてトークセッション

ふるさと運動50周年 ～振り返る三島町の歩み～



建設中の三島大橋・昭和 50 年



特別町民に送る餅の準備の様子

1974 年 (昭和 49 年)	ふるさと運動が始まる 美坂高原管理棟完成
1975 年 (昭和 50 年)	三島大橋完成
1976 年 (昭和 51 年)	ふるさと荘完成 大林ふるさとの山管理棟完成 ふるさと振興公社設立
1977 年 (昭和 52 年)	首都圏三島会発足
1981 年 (昭和 56 年)	生活工芸運動が始まる
1982 年 (昭和 57 年)	第一回三島フォーラム開催 有機農業運動が始まる
1983 年 (昭和 58 年)	地区プライド運動が始まる 健康づくり運動が始まる

ふるさと運動の振り返り



大林ふるさとの山奉仕作業・昭和 56 年(齋藤茂樹氏撮影)



美坂高原になる前の一ノ原牧場



只見川ライン下り(齋藤茂樹氏撮影)



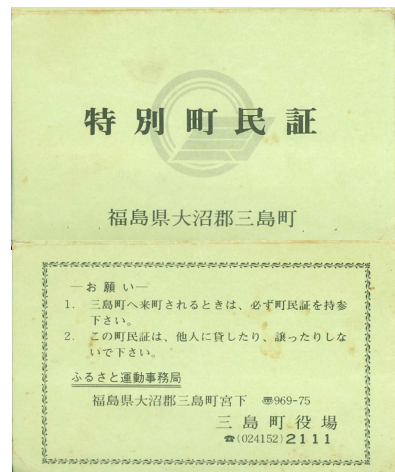
観光協会案内所・昭和 56 年



只見川下り遊覧船「ふるさと丸」就航・昭和 51 年



美坂高原の白い鐘・昭和 61 年(齋藤茂樹氏撮影)



実際に使われていた特別町民証



大林ふるさとの山・昭和 55 年(齋藤茂樹氏撮影)

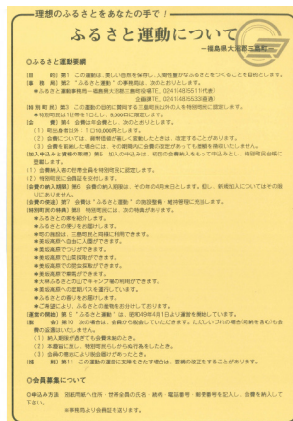
会津の山あいの小さな町に
私のふるさとを見つけた……

**ふるさと運動
新会員募集**

●あなたも会津三島町の特別町民になりませんか？



ふるさと運動のパフレット・昭和 62 年頃



ふるさと運動要綱

皆さんは、「ふるさと運動」と聞く
と何を思い浮かべますか？
「ふるさとを有たない都会の人たち
に理想のふるさとを」をキャッチコ
ピーに昭和 49 年（1974 年）に、当
時町長であった佐藤長雄氏の下展開さ
れました。

「ふるさと運動」によって、町民と
同じく町の施設を利用できる「特別町
民制度」や親戚のように町民のお宅に
泊まれる「ふるさとの家」、美坂高原
整備が進められ、全国に先駆けて都市
農村交流が展開され、さらには生活工
芸運動や地区プライド運動などへと繋
がっていきました。

現在もなお、特別町民制度は継続し
生活工芸運動や美しい村づくりなど、
形を変えながら「ふるさと運動」から
広がった事業が展開されています。

今の町づくりに関係

ふるさと運動の概要

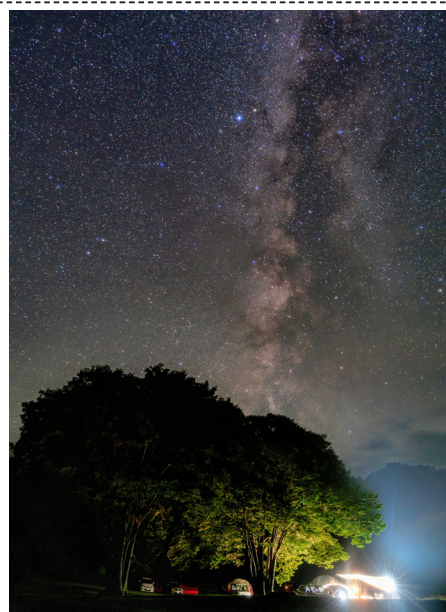
「これがふるさと運動

「ふるさとを求める人に理想のふるさとを」、「三
島に住む人に希望と生きがい」そんな言葉を残
した当時町長の佐藤長雄氏は、何を思い何を目標
に「ふるさと運動」を進めたのでしょうか。

昭和 49 年のスタート当時の資料を確認すると、
今では考えられない程の賑わいと活気にあふれてい
たそうです。

少子高齢化が進み、さらなる人口減少が見込ま
れる中で、「ふるさと運動」を振り返り、改めて「ふ
るさと」を大切にしていことが求められている
と考えられます。

時代や形が変化しても、美坂高原でイベントを
開けば特別町民として遊んだことがあるという方
は多くいらつします。そんな方々の期待を背
負い現在、「ふるさと運動」の中心であった美坂
高原を星空により活用を図るなど、ふるさとに賑
わいや新しい交流に繋げていくことが大切と考え
ます。



美坂高原の星空

テレサ・テン歌碑建立事業！ ～ふるさと運動 50 周年記念～

プロジェクト立ち上げの背景

1977 年にアジアの歌姫「テレサ・テン」が 8 枚目のシングルレコード「ふるさとはどこですか」のキャンペーンに三島町を訪れ、ふるさと運動を展開していた三島町の町民は、彼女を温かく迎え入れました。3 月の残雪が残る中「これほどまでに沢山の雪を見たのは初めて」と感嘆する彼女に町民は伝統工芸のワラ細工の長靴を履かせたり、郷土料理などおもてなしをしたりと温かく迎えました。また、そのお返しに開いたミニコンサートでは、彼女の歌声に町民は心を震わせました。その際、三島町の特別町民にも加入していきました。三島町とテレサ・テンとの心の交流は今でも語り継がれ、そのきっかけとなった楽曲「ふるさとはどこですか」は、町民の心に深く刻まれています。

テレサ・テン没後から 30 年

テレサ・テンが亡くなられてからまもなく 30 年の節目を迎えます。彼女の訪日時の貴重な足跡が残る唯一の場所といえる三島町。この地を訪れるファンの方々も多く、今では海外からも訪れる場所となっています。そのゆかりの地として、足跡を残すことの意義は非常に大きいと私たちは考えています。

一方で、三島町が進めてきた「ふるさと運動」は今年で 50 周年を迎えました。「ふるさと」という概念が希薄となり、更なる人口減少が続き、消滅可能性自治体という危機感が全国に広がっています。そのような中で、ふるさとの良さを再認識しながら、多くの方に第 2 のふるさとと思って頂けるための取り組みが 50 年という節目を迎えました。この取り組みも後世に伝えていくことの意義もまた、大きいと私たちは考えています。

宮下駅前テレサ・テン歌碑建立について

三島町では、テレサ・テン没後 30 年及びふるさと運動 50 周年の記念に、テレサ・テンの日本の心のふるさと三島町が、ファンの方々にとってもふるさとと呼べる特別な場所となることを目指して「ふるさとはどこですか」の歌碑を建立します。



宮下駅前歌碑の完成イメージ

テレサ・テン歌碑建立の寄付者を募集中！

日本でも数少ない「テレサ・テンのゆかりの地」である福島県三島町にテレサ・テンの 8 枚目のシングル「ふるさとどこですか」の「歌碑」を会津宮下駅前に建立するための事業費の一部、総額 750 万円の寄付を募集します。

詳しい内容については右下 QR コードまたは、町ホームページから「テレサ・テン歌碑建立プロジェクト」と検索をお願いいたします。



☎ 地域政策課 ☎ (48) 5533



歌碑イメージ

ふるさとの家

～特別町民から親戚のように～



Q. ふるさとの家を始めた時の思い出
私がふるさとの家を始めたのは昭和 53 年ころだったと思う。一番最初に始めたのは小堀良徳さんと山垣さんたちだったと思う。
特別町民の方がいらつしやったときにこの木の特別町民証を渡して首にかけてもらったの。これで美坂もお風呂も町民と同じ待遇で使えたの。



小柴 ヨシノ さん (写真左)

今回から「ふるさと運動」に直接関わっていた方にインタビューを行い、当時の「ふるさと運動」について振り返っていきます。最初にインタビューを行うのは「ふるさとの家」として民泊をしていた小柴 ヨシノ (西方) さんです。

ふるさとの家についてインタビュー

Q. 特別町民のなつての繋がりに関して
ふるさとの家をしているとき、嶋田さん家族と川原田さん家族が来てくれたの。5 年くらい続けたかな、そのあとずっと関係が今まで続いているの。嶋田さん家族は、「ふるさと運動」30 周年のときも町に来てくれて昔小さかった子ども達も結婚して子どもを連れて来てくれたの。今一番ご夫婦で来るのは瀬田さん。瀬田さんの息子が私の長男か次男どっちかと同じ年で民泊のときいつも来てくれたの。瀬田さん夫婦は今でも電話すれば繋がるような仲で、野菜を送ったり向こうから送られてきたりしてる。
民泊は平成 9 年までやっていただけで民泊しちやいないってなってるからは、森校舎カタクリに泊まってもらうよう移行しようってなったの。



Q. ふるさとの家を始めた時の思い出

始める時は、私は児童館で働いてた。泊めてくれとお願ひされたときは、二階も空いてるし、「まあまあやっか」ていうような感じだった。嫌いではなかったかな、子ども相手をするの好きだったから。でもその頃、私務めてたから食事関係はばあちゃんやってくれた。でも昼間はみんな美坂高原とか川に出かけちゃうから、いっぱい作る必要はなかったの。

Q. ふるさとの家が人気だった理由は何？

人気だった理由は、場所とやっぱり人だな。人付き合いが私は好きだったからやっぱり民泊やつて良かったなって思うの。今でも関係が続いている人は親戚みたいなもので今でも会えることが楽しみなってます。



ALT リナ ゴトウ先生ありがとうございました！！

三島町の小中学校のALT（英語指導助手）として3年間ご尽力いただきました。

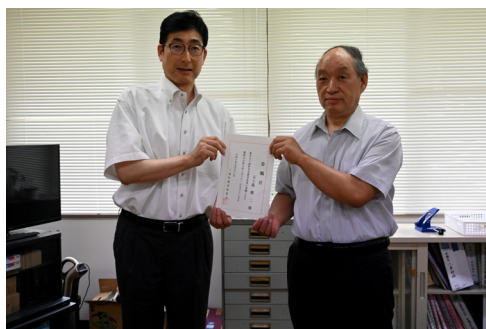
「三島町での暮らしと仕事は、私の人生にとって忘れられないものになりました。三島コミュニティの温かさや親切さは本当に素晴らしいものでした。三島町はあらゆる意味で故郷のように感じられました。三島町の皆さん両手を広げてくれて私を迎え入れてくれてありがとう。」リナ先生3年間ありがとうございました。



▲左から矢澤町長、リナ先生、山口教育長



ハナ・イングラム先生（23歳）



▲左から山口教育長、五十嵐健二さん

新ALT ハナ・イングラム先生が着任！！

三島町の小中学校のALT（英語指導助手）にカナダ・バンクーバー出身のハナ・イングラム先生が着任しました。「三島町でALTとして過ごしている間、日本の文化を学び日本を探検したいと思っています。趣味はハイキングとロッククライミングです。」と笑顔で話していました。ハナ先生どうぞよろしくお願いいたします。

社会教育委員に五十嵐健二さんを委嘱！

町の社会教育委員に五十嵐健二さん（宮下 町議会議員）を教育委員会から委嘱しました。なお、任期は前任者の残任期間で、令和7年3月31日までです。

社会教育は、地域住民のもつ資質や能力を高め、その力を地域活動に活かす「人づくり」、そういう人々の活動が地域の課題解決や地域の活性化につながる「地域づくり」、そして、それらの活動をととして地域住民の間に絆が生まれる「絆づくり」という大切な意義があります。

教育委員会では、社会教育による学びを通じ、持続的な地域コミュニティの基盤をつくっていくことを目指していきます。

町民記者通信

地区内共用道の草刈りとしめ縄づくり（7月7日）と土用のおこもり（7月19日） 佐久間 絹江（滝原）

駒形神社境内と地区内3箇所の共用道を草刈り機械、^{なた}鉋、鎌等を持参し、生い茂った草木を手際よく除草していきました。作業後に正月用のしめ縄作りを、前神社総代の方に指導を受け、作り上げました。終了後は恒例の親睦会です。ここ数年は、コロナの影響で持ち帰りにしていましたが、久しぶりの飲食を楽しんだようです。

古来のおこもりとは形態が変わってきましたが四季折々の節目に神社総代、区長、地区の方々が参集し、御神酒を頂きながら親睦を深め合いました。

梅雨明けから暑さ厳しくなるこの時期に神々に健康と安全を祈願しました。この時期、神社前広場のネジ花が満開となり、週2回のグラウンドゴルフで汗を流す、クラブ員参加者の目と心を楽しませてくれています。



「奥会津のむかし話～冬～」開催中！

奥会津7町村文化施設間連携企画

交流センター山びこでは、奥会津7町村文化施設間連携企画展「奥会津の冬」を9月29日まで開催中です。昭和10年代から平成初年代にかけて（故）細堀貫一さん・（故）齋藤茂樹さんによって撮影された冬の写真約170枚を中心に、映像や民具、古文書などを展示しています。

8月24日には関連企画として「奥会津のむかし話～冬～」が開催され、奥会津から10名の演者が集い、120名もの観客の前で各地に伝わる「むかし話」が披露されました。

三島町からは小松けい子さんが「初嫁と桐のタンス」を、五十嵐七重さんが「河童火やろう」を語り、その後五十嵐七重さんと奥会津ミュージアム館長・赤坂憲雄先生による特別対談「奥会津の冬とむかし」が行われ、軽快かつ深みのある内容に会場が盛り上がりしました。

第2回 みさか DE あそぼ！

美坂高原利活用事業開催

美坂高原利活用事業の一環で、今年で2回目となる「みさか DE あそぼ！」は、8月10日・11日に開催されました。2日間で約300人が来場し、前回は上回る方が美坂高原に足を運びました。

町民の方の利用機会が減少している美坂高原ですが、お盆前の2日間、町民や帰省客向けに美坂高原を開放し、児童向けプールやテントサウナ、流しそうめんなどが設置され、家族連れの方々などが夏の美坂高原を楽しみました。

9月28日には、美坂高原にて「スターウォッチングツアー」として国立天文台教授の渡部潤一先生による講演会と星空観望会が開催されます。是非ご来場ください。

白熱！地区対抗ソフトボール大会

8月14日にお盆恒例の地区対抗ソフトボール大会が三島中学校グラウンドで開催され、大谷、大登、滝谷、西方の4地区が参加しました。新ALTのハナ先生の始球式で試合が開始され、和気あいあいと楽しくプレーしていました。

お盆休みで帰省した方々も多く参加され、大会は大いに盛り上がりしました。優勝は西方地区で、ホームランも多く出していました。



▲小松けい子さんによる「初嫁と桐のタンス」



▲五十嵐七重さんと赤坂憲雄先生による特別対談



▲多くの方で賑わう様子



▲美坂高原で遊ぶ来場者



▲優勝した西方地区の皆さん



大登ロータリーとアーチ三兄弟ビューポイントの草刈り(8月7日) 小島 純さん(宮下)

お盆を間近に控えた8月7日、宮下地区では、委員の皆様が朝6時から大登ロータリーの草刈りを開始し、帰省される方々や訪れる方々に気持ちよく町に入ってもらおうと、作業に取り組みました。その後、三兄弟ビューポイントに移動し、訪れる人々に気持ちよく撮影視察してもらえるように、視点場所周辺の草刈りに一生懸命汗を流しました。



滝谷「お盆 櫓 踊り」賑やかに(8月13日) 目黒 民一(滝谷)

滝谷地区の「お盆 櫓 踊り」は、今年も8月13日に地区集会所前広場で開催されました。お盆のこの時期に開かれるようになってから11回目となり、地区や帰省した人たちにも夏の風物詩としてすっかり定着した感じがします。

夕方、墓参りが済んで迎え火を焚く頃になると会場の櫓や提灯にも明かりが入り、いよいよ櫓踊りの幕開けです。力強い太鼓の音と篠笛や鐘の軽快な音色とリズムは、若者が唄う独創的な甚句唄を引き立てます。趣向を凝らした仮装踊りも多く見られ踊りの輪を一層盛り上げました。

また、会場では有志による焼き鳥や生ビール、アイス等の模擬店も並び大賑わいでした。櫓と踊りと輪の一体感、歓声と熱気が響き合う中で、地元の人も帰省した人たちも一夜限りの盆踊りを満喫していました。



ボランティアこぶしの会～コスモス除草活動～(7月28日) 佐久間 絹江(滝原)

連日の暑さとは打って変わり朝霧が立ち込め、除草活動を行うには最適な日となりました。林業センター脇と地区入口待避所のコスモスも膝丈以上に伸び、昨年こぼれた種から芽生えたコスモスがつぼみをふくらませ、開花を待ち望んでいるかのようです。



ボランティアこぶしの会～つるの湯遊歩道草刈り～(7月28日) 佐久間 絹江(滝原)

今年度も早戸地区と滝原地区の方々により、作業が行われました。男性陣は草刈り機械を使い只見川沿いの遊歩道を川上に整備し、女性陣は、温泉神社境内と展望台を中心に草取り鎌等を使い除草作業を行いました。

只見川から立ち上る朝霧を全身に浴びて、会話を楽しみながら1時間程度の除草作業も行いました。つるの湯周辺は温泉のみならずいろいろなコース楽しめる遊歩道が整備されています。どちらもお楽しみください。



お盆を前に寺、神社周辺を清掃作業(7月28日) 小島 純さん(宮下)

宮昌寺護持会と三島神社総代会では、お盆を控えた7月28日、朝6時から寺、神社境内周辺の清掃、草刈りなどを行いました。

住民の皆さんの大勢の参加協力を得て、境内の雑草の刈り取りや寺、神社内の清掃に汗を流しました。終了後は配られた冷たい飲み物を皆さん美味しく飲み干していました。



松原多目的集会所大掃除(8月4日) 阿部 和彦(松原)

松原地区では1年に2回(お盆前の8月上旬、お正月前の12月上旬)、多目的集会所の大掃除を行っています。

午前7時から松原地区住民10名が掃除道具やタオル持参で集まり、クモの巣取り・床磨き・トイレ清掃・ガラス拭き・草むしりなどの業務を、分担しながら手際よく作業が行われました。

梅雨が明け、朝からジリジリと暑い中、約1時間の熱心な作業で快適な集会所となりました。当番の10名の皆さんお疲れ様でした。また、12月上旬に次の10名で新年に向けての大掃除を行います。



提灯取り付け作業(8月4日) 小島 純さん(宮下)

三島神社祭礼奉賛会では、お盆を間近に控えた8月4日、朝6時から、町内の提灯の取り付け作業を行いました。宮下駅前のコバヤシカナモノ店前から提灯の取り付けを開始し、三島中学校近くの旧渡部ラジオ店前までの町内10ヶ所に設置しました。

提灯は9月のお祭りまで夜間点灯されます。提灯の電球は今年からLED電球に交換され町内を明るく照らしています。



地域おこし協力隊

活動誌

ようやくスタート地点へ

西田 星弥

地域おこし協力隊の西田です。

今年の夏は例年にも増して過酷な暑さを感じています。そんな私も季節の変わり目に、立て続けに体調を崩してしまい、復調するまでにかなり時間がかかってしまいました。

今年に関しては異常な暑さだけでなく、地震や豪雨といった災害面も危惧すべきレベルであることから日常的に災害への備えが必要だと感じています。

この記事を読まれている町民の皆様もご自身の体調には十分気を付けながら、必要な備えを行ってください。

さて、本題についてお話ししますが、昨年度から準備を進めていたECサイトの運用が



9月よりようやく開始できる目途が立ったため、改めて周知させていただきたいと思います。

運用開始直後は商品数を絞った開始が見込まれますが、秋から冬にかけて徐々に商品も充実させたいと考えています。

そのためには、生産者である方々のご協力が必要不可欠となりますので、三島町PRにつながる取り組みに興味や関心のある方はぜひご協力いただくと幸いです。

当初に想定していた計画よりも小規模からのスタートとなりますので、大々的な運用は現時点ではできませんが、一歩一歩着実に進めて意義のある取り組みにしたいと思います。

正しい追い払い方法とは

まず前提として知ってほしいのは、花火やパチンコなど、追い払いをする方法は数ありますが、サルが恐れるのはこれらの方法ではなく、「追い払いをするニンゲン」だということです。私たちが恐怖の存在であるということをサルに認識させましょう。

① サルの姿を見てから追い払いをする

サルがいなくて花火を上げたりしても、サルからすれば「なんか遠くでデカイ音するなあ」くらいのもので、恐怖を感じることはありません。逆に花火の音に慣れてしまうおそれもあります。

② 里でサルを見つけたら必ず追い払いをする

人に見つかっても人から何もされないと、サルは「ニンゲンは何もしてこない」ことを学習してしまい、次第に人に慣れた行動をとるようになります。花火がなくてもいいので手近なものを使って大きな音を出したり、道具がなければ怒鳴ってやったりして、里に来たサルにプレッシャーを与えてください。

※ 中には威嚇して逃げないサルもありますが、この場合は無理をせず逃げないサルがいたら私を呼んでもらってOKです。

③ 林の中まで追い払いをする

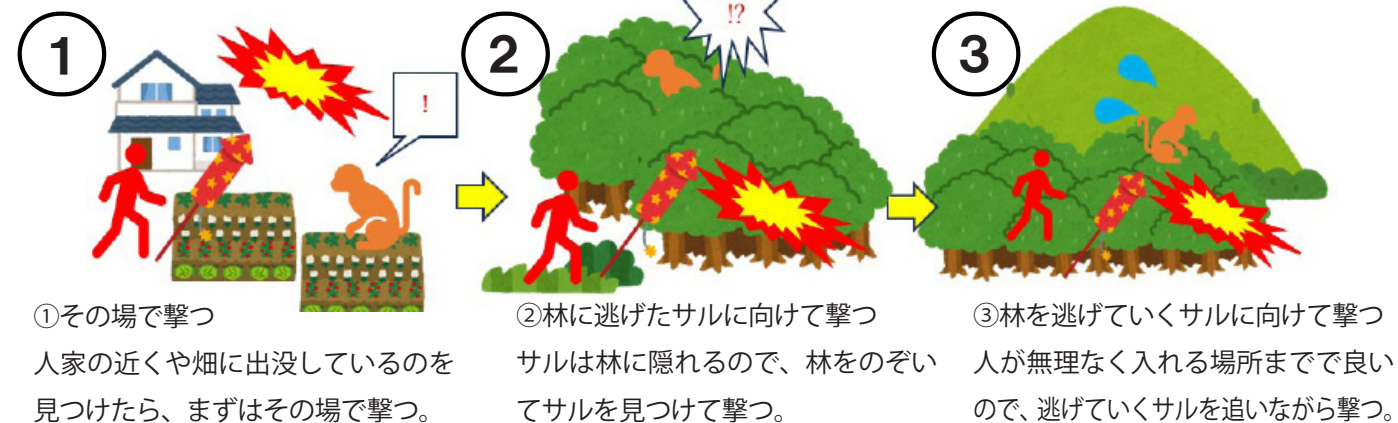
追い払いをする場合、できる限りで良いのでサル^{すみか}の住处である林の中まで踏み込んでください。

踏み込むのは1、2歩でも構いませんし、林まで入れないならその手前まででも構いません。

「ニンゲンが俺たちの家まで追いかけてきたぞ!」と思わせることが狙いです。

花火を使うのであれば、サルを見つけた場所から林の中まで、段階的に数発打ち上げるのが良いでしょう。

【例：花火を使った追い払いのイメージ】



④ サルがいなくなってもしばらくは待機

サルがいなくなったと思って、必ず近くで様子を見ています。すぐに人が立ち去るとそれを見たサルも戻ってきってしまうので、5分ほどその場で待機してください。もしサルの姿が見えたり、鳴き声が聞こえたりしたら、ダメ押しの追い払いをしましょう。

⑤ 可能であれば複数人で追い払いをする

サルは学習能力が高いと先程書きましたが、地区のある一人だけが追い払いをしているとその人のことを覚えてしまいます。これはもちろん良いことなのですが、裏を返すと「いつも追い払いをしてくる、あのニンゲンしか怖くない。」ということでもあります。

可能であればご近所の方と声を掛け合い、複数人で追い払いをしましょう。「あの地区やばいニンゲンしかいねえよ!」とサルに思わせることができれば、地区全体の被害を防ぐことができます。

終わりに

今回は、「比較的手軽で、効果も早く出るサル対策」として、追い払いの方法について説明しました。

追い払いに使う花火は、三島町役場に配布していますので、サルの被害に困っている方や家の近くでよくサルを見かけて不安という方は是非役場までお越しください。また、三島町に出没するサルの動きを把握するため、情報収集も行っています。

サルを見つけたら、日時や場所、サルの頭数や子ザルの有無などを教えていただければ幸いです。私も力を尽くしますので、協力してこの町からサルの被害をなくしましょう!

※ 今回の記事作成に関しては、特定非営利活動法人おーでらす様から情報提供をいただきました。

ー特集ー鳥獣対策 サルの追い払いについて

みなさんこんにちは。地域おこし協力隊で鳥獣対策専門員として活動している鈴木です。

今年、三島町ではサル（ニホンザル）の出没が多く、これまでサルが出没していなかった場所での出没や農作物の被害が相次いでいます。

先日、会津農林事務所と福島県環境保全農業課主催のサル対策研修会で役立つ情報をいただきましたので、今回はサルの追い払い方法について皆さんにお伝えしたいと思います。

まず始めに…ニホンザルとは何ぞや？



- ・野生での寿命は、長いと 20 歳くらい。
- ・メスは 6 歳くらいから出産。基本的に子どもは一度に 1 頭産む。
出産するのは隔年（2、3 年に 1 度）だが、栄養状態が良いと毎年出産することもある。
- ・目で見て外部の情報を判断するので、基本的に昼間しか行動しない。
- ・野生の群れでは、メスのほうがオスよりも優位。いわゆるボスザルは野生では存在しない。
（メスは、自分が生まれた群れから出ていくことはないが、オスは群れから出たり入ったりする。）
- ・基本は群れで行動。群れの数は、10 数頭～多いと 100 頭を超えることもある。
（群れから離れたオスが単独～少数のグループを作って行動することもある。）

これらの情報をまとめると、サルという動物は、

- ① 学習能力が高い
- ② 群れで動くため農作物の被害が大きい
- ③ 柵などの不備を狙って突破できる身体能力がある

動物ということになります。

このように書くと「じゃあ、どうやって対策したらいいんだ!」とか、「対策しても無駄じゃないの?」と思われるかもしれませんが、ご安心ください。対策する方法はちゃんとあります。その方法は…サルの高い学習能力を逆に利用すればいいのです!

「人類の恐ろしさを知るがいい!」

どこかの悪役のようなセリフですが、里に下りてきたサルに対して人間が正しい方法で追い払いをすれば、サルはその高い学習能力ゆえに「おっかない（恐い）ニンゲンがいる」ことを覚えます。また、サルは目で外部の情報を得ていることから、いつも追い払いをする人の顔や服装なども覚えます。

つまり、サルに「この里にはおいしいエサがあるけど、いつも追いかけてくるニンゲンがいるからコワイ。近づきたくない…」と覚え込ませれば、そのサルは追い払われた場所には近づかなくなります。

各地区で正しい追い払いを続けていけば、三島町からサルの被害をなくすることも夢ではありません。

セルフメディケーション

vol.94

健康で元気な毎日！

町民課保健福祉係 ☎ 48-5565

セルフメディケーションで元気な毎日を！

平均寿命が長くなり、生活習慣病が問題になっている現代において、日々をいかに健康に生きるかが問われています。世界保健機関（WHO）の定義によるセルフメディケーションとは「**自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること**」です。

<セルフメディケーションのメリット>

1 健康管理を習慣化できる

家庭での血圧や体重を継続的に測定する、年に1回健康診断を受けて結果をもとにかかりつけ医へ相談するなど、普段からの健康管理が大事です。また、普段から適度な運動と栄養バランスのよい食事、十分な睡眠時間を確保し、もともと備わっている自然治癒力を高めましょう。

2 OTC医薬品（市販薬）の使用で、受診の時間が省け医療費の増加を防ぐ

かぜ気味だ、頭が痛い、胃腸の調子が悪いなど、日頃よく経験する症状はOTC医薬品を上手に利用し、軽度な体の不調は自分で手当てすることができます。

注意！ 自分の不十分な知識によるセルフメディケーションは、悪い結果を招くことも。家族や自分の体質や状態、症状に合った薬を適切に使用するために、かかりつけの薬剤師をもちアドバイスを受けましょう。

セルフメディケーション税制を活用しよう！

OTC医薬品（市販薬）を購入したときのレシートや医療費の領収書は保管しておきましょう。1年間に指定された市販薬の購入金額の合計が12,000円を超えていたら、所得控除が受けられます。（※医療費控除制度との併用は不可）詳しくは役場町民課までお問い合わせください。



図書のご案内

町民センターゆめぽけっと

●利用時間
月～金 午前9時～午後9時
土・日・祝 午前9時～午後5時
●お休み
年末年始
●公民館 ☎ (48) 5599

●今月のおすすめ

サンショウウオの四十九日

朝比奈 秋 著



周りからは一人に見える。でも私のすぐ隣にいるのは別のわたし。不思議なことはなにもない。けれど姉妹は考える、隣のあなたは誰なのか？そして今これを考えているのは誰なのか——三島賞受賞作『植物少女』の衝撃再び。最も注目される作家が医師としての経験と驚異の想像力で人生の普遍を描く、世界が初めて出会う物語。

●図書の紹介



バリ山行

松永K三蔵 著



ぼくの村は
壁で囲まれた

高橋 真樹 著



ツミデミック

一穂 ミチ 著

三島町公民館・町民課コラボ事業 ～スイミング教室・水中ウォークで足腰元気教室～

三島町公民館及び町民課では、町民の健康づくりを目的に、以下により事業を実施いたしますので、ふるってご参加ください。

1 スイミング教室（公民館主催）

2 水中ウォークで足腰元気教室（町民課主催）

【日 時】 令和6年9月28日⑤ 午前10時から正午まで
※10、11、12月に1回ずつ予定しております。

【場 所】 西会津町さゆり公園屋内プール
耶麻郡西会津町登世島字西林乙 2529-10

【交通手段】 町マイクロバス（自家用車も可）

【集合時間】 町マイクロバスを利用される方は、役場前に午前9時に集合してください
（自家用車も可、午前9時45分までに、開催場所へお集まりください）

【申込期限】 各教室とも、令和6年9月20日⑤まで

※ 詳しい内容については、9月6日⑤発行のお知らせ版をご覧ください。



●地域包括支援センター ☎ 48-5045

●三島町公民館 ☎ 48-5599

木工教室開催 ～三島小3・4年生来館！～



組み立て（輪ゴムをかける）

夏休み直前の7月中頃、三島小の3・4年生が来館し、それぞれ“道具箱”と“筆箱”の製作を行いました。

3年生は桐の道具箱。机やロッカーに入れて使える四角い箱をつくり、材の四隅にボンドを塗ったあと、四角を組んで輪ゴムで留めます。子どもたちには輪ゴムが太く強力なため、必要な大きさに伸ばすことに苦労をしていましたが、講師の先生や隣の人と協力して、無事に組み終えることができました。

4年生は桐の筆箱です。こちらも箱ですが、蓋や形の違う板など道具箱と比べてパーツの種類が多く、少し難易度が上がりますが、そこはさすがの上級生、皆さんバッチリ完成していました。木の品物は、少々傷ついたり、凹んだりしても補修や直しが可能なので、その際には工芸館へお持ちください。また一緒に作業をしましょう。



▲道具箱組み立て



▲ボンドの塗り方



▲完成

【工芸館からのお知らせ】

第20回会津の編み組工芸品展
出品作品募集中

【募集期間】 9月16日⑤まで

●三島町生活工芸館 ☎ (48) 5502

工芸館だより ④〇 ものづくりの伝承



国環研だより 第73回

残暑に気をつけて！まだまだある熱中症対策

三島町のみなさま、こんにちは。8月下旬から天気が崩れたのもあって、全国的にも気温が少し下がってきました。しかし、8月20日の気象庁発表によると、全国的に温かい空気に引き続き覆われやすく、9月～10月を中心に暑さが戻る見込みとのことです。過去の傾向から見ても9月以降の残暑は厳しくなるようなので、熱中症の危険度もしばらく高いままになると思われます。

暑さの避難場所「クーリングシェルター」

さて今回は暑さ対策のひとつである「クーリングシェルター（指定暑熱避難施設）」についてご紹介したいと思います。今年の4月1日に施行された改正気候変動適応法に基づき、暑さをしのげる場所としてクーリングシェルターを自治体が指定できることになりました。これは冷房設備が整備されている等の要件を満たしている施設で、熱中症特別警戒アラートが発表されたときは、暑さからの避難場所として誰でも休息できるように開放されます。

福島県内の施設でもクーリングシェルターは数多く指定されていますので、熱中症特別警戒アラートが発表された場合に備えて、事前に施設の場所を確認しておくとい良いでしょう。

スーパーやコンビニでも利用できる「ふくしま涼み処」

クーリングシェルターとは別に、福島県では「ふくしま涼み処」という取り組みを進めています。これは暑い日に涼しく快適に過ごせる場所として公共施設や商業施設に設置しているもので、冷房設備や椅子等を備えた施設です。

一時的な休憩場所ではありますが、クーリングシェルターとは違って、熱中症特別警戒アラートが発表されていない日でも利用できるものですので、暑い日の外出中に一休みする場所として利用してはいかがでしょうか。

三島町では町民センターと郵便局の計3ヶ所に設置されていますが、会津地域だけでも186ヶ所（2024年8月27日現在）設置されています。お出かけ先での熱中症対策として、こちらも事前に設置場所を確認しておきたいですね。

涼しい場所で休憩できるのは
ありがたいね！



油断はせずに熱中症対策

過去5年間の暑さ指数のデータを見ると、全国的に10月までは熱中症の発生に警戒・注意が必要な指数になる期間が続いています。暑さのピークは過ぎたからといって、まだまだ油断は禁物です。こまめな水分補給は基本として、暑い日は今回紹介したような施設もうまく利用しながら熱中症への対策を続けていきましょう。

【参考文献】

- ・環境省熱中症予防情報サイト
https://www.wbgt.env.go.jp/doc_shsa.php
- ・埼玉県ホームページ
<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0704/netsuchusyo/shonetsuhinan.html>
- ・福島県気候変動適応センター
<https://www.fukushima-kankyosozo.jp/lccac/kenkou/heatillness.html>



ときわ たつひこ
筆者 常盤 達彦

●国立環境研究所福島地域協働研究拠点
地域環境創生研究室 ☎ 0247 (61) 6572

町史編さん室だより

第104回

美坂高原

以前の姿

ご家庭に古い文書や写真などがございましたら、交流センター山びこへご連絡ください。
☎(52)2165

今年五十周年を迎える町おこし「ふるさと運動」のシンボルとして開発されたものの一つに、美坂高原があります。この美坂高原は大石田にあり、字名としては一ノ原になります。この一ノ原はどのような場所であったのか、かつては屋根を葺いたりなどに利用する茅の刈り場であったといえます。大正元年（1912）に大石田の中野に生まれた飯塚眞氏が執筆した自伝『夕映の山河』には、この茅刈りについての記述があります。

（前略）変わりやすい秋の日だったが、翌日は晴れだった。（中略）ゆいといって、手間を貸し借りする習慣があった。茅刈りに手伝って貰う事を、ゆいを借りるという。また後日先方へ手伝って、ゆいを返すという。（中略）茅刈りの場所は、市野ヶ原であった。（中略）村外れの名寺坂を登り、鎮守の森を左に見て、坂を西北へ下ると、木羽背負いに通った時と同じ山路を、初尾沢の入口で分かれ、ここから、林の中や柴山を登るほんとうの上り山路にな

る。昔、金を掘ったという金山の、ずりを捨てて、禿山になった所を横切って、胸突き八丁と昔の人が言った胸が地につく程の急勾配の坂道を登ると市野ヶ原である。実に一里余の坂道を登って行く市野ヶ原は、高山丘陵の高原とでもいうのか、南に御坂山、西に黒男山、奥名入と、北東に日向山など（中略）市野ヶ原は広く、凡そ二十町歩もあるうかと思われた。茫洋とした芒が原で、この芒が生長して茅となり、屋根を葺く材料となっている。雪解けの春先には、この広大な原はワラビの産地となる。毎年毎年生えては枯れる茅や萩などの腐って出来る良質の腐食土が、ワラビなどの栄養を支え、小指大の名物ワラビとなって生える。この市野ヶ原の、ワラビやゼンマイなどが出回ると、坂下町、若松方面の里平では田仕事が始まる。これらの山菜料理が珍重される。これらの山菜料理が珍重され、仲買人が来て買いしめる。村の山好きで、山菜取りの上手な人達には、またとない収入を得る場所である。春先は何れの人も、冬

を越して金欠になっているので、ゼンマイ、ワラビで得る収入が、大きな力となって、人々の懐を潤しているのだと叔母さんが話していた。（中略）茅刈り場へ戻って見ると、十七吉小父さんの世話役で茅ボッチの立て方など、既に六ボッチも出来ていた。丸くなるよう百束くらいずつ立て掛け、藤蔓で締め付けて束るき、上の穂の部分を折り曲げ硬く結び、雨や雪解け水が中へ入らぬようにして冬を越させ、来春になって、茅がす枯れて軽くなった時機を見て運ぶのである。（後略）

※漢字は原文のまま、ルビは引用者によるもの

当時の一ノ原における茅刈りの様子だけでなく、その道程や、春の山菜採りにも利用されていたことなどがわかる大変貴重な内容です。

その後、昭和41年（1966）から一ノ原では大規模な開発が行われ、本格的な完成は44年ですが、42年から町営の牧場として運営が



▲一ノ原の町営牧場
昭和40年代前半（齋藤茂樹氏撮影）

愛ばんしょ外来からのお知らせ

三島町ケーブルテレビ「三島通信」では健康教室を放送中です。
9月は「栄養成分表示を活用しよう」です。ぜひご覧ください。

☎ 福島県立宮下病院 ☎ (52) 2321



町からのお知らせ

ご寄附ありがとうございました(7月分)

ふるさと納税

関 口 智恵子 様(南会津町)
満 田 ひとみ 様(会津若松市)
寄附件数12件 計108,000円

9月分納税のご案内

【納期限 9月30日(月)】

▼ 国民健康保険税 (第3期)
▼ 介護保険料 (普通徴収)(第3期)
▼ 後期高齢者保険料(普通徴収)(第2期)
忘れずに納付してください。

☎ 町民課 町民係 ☎ (48) 5555

お悔み申し上げます

二 瓶 義 之 様(80才・大谷)

町の人口と世帯(8月1日現在)

人口	1,349	増減数	-5	出生	0
男	683		-3	死亡	5
女	666		-2	転入	3
世帯	679		-3	転出	3

※住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

社会福祉協議会より

滝谷和楽塾	川井友愛サロン
9月17日(火) 午前10時から 滝谷集会所	9月9日(月) 午前10時から 川井集会所
サロンないり	大登サロン
9月18日(水) 午前10時から 名入集会所	9月9日(月) 午後1時30分から 大登生活改善センター
高清水・小山 いきいきサロン	浅岐あったかサロン
9月18日(水) 午前10時から 高清水集会所	9月10日(火) 午前10時から 浅岐集会所
ほがらかサロン	サロンなごみ
9月26日(木) 午前10時から 森の校舎カタクリ	9月12日(木) 午前10時から 西方ふるさとセンター
桧原はつらつクラブ	ひまわりサロン
10月2日(水) 社会見学	9月13日(金) 午前10時から 町民センター
	間方いきいきクラブ
	9月13日(金) 午前10時から 間方集会所



◆ 心配ごと相談(弁護士相談) ◆
9月25日(水) 福祉センター
午前10時から午後3時まで

町社会福祉協議会へのご寄附
(ご遺志によるもの)

二 瓶 好 暢 様(大谷)

☎ 社会福祉協議会 ☎ (52) 3344

第3回自衛官一般曹候補生募集

【募集期間】 令和6年10月1日(火)～11月28日(木)
※ 第1回及び第2回で採用予定数を満たせる場合、第3回は実施しない場合があります。

【募集期間】 日本国籍を有する18歳以上33歳未満の者
※ 32歳の者は、採用予定月の末日現在、33歳に達していない者

【対象者】 令和7年3月高等学校卒業予定者
中等教育学校卒業予定者

【試験科目】 1次 筆記試験及び適性試験
2次 口述試験及び身体試験

【合格発表】 1次 令和6年12月23日(月)
2次 令和7年1月30日(木)

一般曹候補生とは、18歳以上33歳未満の者を対象に、陸上、海上、航空各自衛隊の部隊勤務を通じて、その基幹隊員となる陸・海・空曹自衛官を養成する制度です。応募資格年齢を比較的に広くとっているため、高校新卒者はもちろん、高専卒、大卒、社会人経験者まで多様な経歴を持った人材が一般曹候補生として入隊します。

詳しい内容についてはお近くの地方協力隊本部までお問い合わせください。

☎ 自衛隊福島地方協力本部 ☎ 0242-27-6724

県立テクノアカデミー会津からのお知らせ

省エネ住宅の高効率設備や再生可能エネルギーに関するセミナーを開催します。エネルギー収支をゼロにする考え方(ZEH:ゼッチ)に関する知識を深めたい方は、気軽にご参加ください。

なお、詳細はホームページ(<https://www.tc-aizu.ac.jp>)に掲載しています。



【日 時】 令和6年10月11日(金) 14:00～15:30
【会 場】 アピオスペース 大会議室
(会津若松市インター西90番地)
【対象者】 関連機関の方、ZEHに興味をお持ちの方
【申 込】 電話または上のQRコードから申込みください。

☎ 県立テクノアカデミー会津 電気配管設備科 ☎ 0241-27-3221

会津坂下警察署からのお知らせ

県内各地においてSNS(X、Facebook、Instagram、TikTokなど)を使用した詐欺が多発しています。

特に、次の2種類の手口が急増していることから注意してください。

① SNS型ロマンス詐欺
SNS型ロマンス詐欺はSNSやマッチングアプリを通じて出会った者と、実際に会うことなくやり取りを続けることで恋愛感情や親近感を抱かせ、「結婚資金」や「金銭の援助」といった名目で、ネットバンキングなどの手段によりお金を振り込ませる詐欺です。

外国人を名乗り、「荷物を送るための関税」や「日本に会いに行くための旅費」という名目を使うこともあります。

② SNS型投資詐欺
SNS型投資詐欺は「必ず儲かる」「あなただけに教える」等の広告や有名人の名前を使うことで興味を引き、SNSでメッセージのやり取りを重ねて信頼させてから「投資金」や「手数料」といった名目でネットバンキングなどの手段によりお金を振り込ませる詐欺です。

ロマンス詐欺の要領で恋愛感情や親近感を持たせ投資に誘導する手口もあります！

少しでも怪しいと感じたら連絡をやめて警察に相談してください！！

☎ 会津坂下警察署警務係 ☎ 0242(83)3451

労働安全衛生総合研究所からのお知らせ

国内で取り扱われている化学物質の中には、危険性や有害性を持つ物質が多くあるため、労働者が安全に働けるように化学物質規制があります。

労働安全衛生法関係法令の改正により、令和6年4月から、職場での化学物質規制が大きく見直しとなっています。詳しくは、右QRコードから労働安全衛生総合研究所ホームページをご覧ください。

☎ 化学物質管理無料相談窓口 ☎ 050-5577-4862



会津の編み組 工芸品展

第20回

「技」の継承と伝統・そして現在へ

令和6年

10月12日・13日

12日 午前9:00~午後4:00

(午前8:30から表彰式開催)

13日 午前9:00~午後3:00

会場／三島町交流センター山びこ



町長日記 「消滅可能性自治体に挑戦する戦略を」

No. 100

4月25～26日の消滅可能性自治体に関する新聞報道に衝撃を受け、朝一番に課長会議を招集しました。本町は、全国に先んじて昭和49年から過疎対策として都市と農村の交流による協働のまちづくりを展開する「ふるさと運動」、集落の文化財を核としてコミュニティ再生に取り組む「地区プライド運動」、山村の農業振興策としての「有機農業運動」、山葡萄つるやマタタビ等を原材料としてバッグ類を制作する編み組細工、日本を代表する会津桐の生産地として原木の供給地から付加価値を付けて販売する桐加工場や生活工芸館を整備するなど、地域資源を活用した「生活工芸運動」に取り組むとともに、それらの運動を支える医療機関と連携した「健康づくり運動」を通して、現在も続く交流人口・関係人口の礎を築いてきました。

これらの運動は「今に生きる運動」だと褒めていただきますが、人口減少社会に対応できない悔しさと悲しさで次の対策に足踏みしております。

一方で、これまでのまちづくりの理念と実行は決して間違っていないと確信しており、過去にこそ三島町の未来があるのだという強い想いを秘め、消滅可能性自治体に立ち向かって行く覚悟です。

しかし、資本主義というシステムは大きく変わろうとしているような気がしています。成長という概念や幸福感に対する意識に変化が起き、特に我々の時代と違うことを感じています。若手の学者である成田悠輔の「22世紀の民主主義」、また斎藤幸平の「人新世の資本論」を読んでいると大きな変化のうねりが来ていると感じています。

これらのうねりの波を捉えつつ隣接町村と連携し、各町村の行政内部の変革をしながら総合行政としての地域循環経済共生圏のシステム構築が必要であり、それに向かって挑戦する必要があります。時代を動かす、会津広域の連携が求められています。

三島町長 矢澤 源成

また、町全体を博物館に捉える「エコミュージアム構想」を立ち上げ、環境や文化そして観光に配慮した「全集落のネットワーク構想」、町職員全員が地域づくりに参画する「職員地区担当制」を役場内に立ち上げ展開してきました。

来町する大学の先生方は、50年前からこのような運動を展開していた驚きに加え、こ